



ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 I 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2024 年 7 月 第 12 号

みなさんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。

今、日本の小学校は夏休みです。私はこのナミビア通信を、ナミビアへ来る前に勤めていた小学校の子どもたちに向けて書いていました。しかし最近、私のナミビア通信をホームページで読んでくださった方々から、LinkedIn などを通してたくさんメッセージをいただくようになりました。「今回の記事が面白かった」「とても勉強になった」など嬉しいお言葉をいただき、本当に励みになっています。ありがとうございます。

そこで、この夏休みの間は、子どもたちに向けてではなく、ホームページ上で読んでくださる方に向けて、記事を書きたいと思います。実はこれまでも、協力隊として発信してみたいと思う内容があっても、子どもたちに伝えたいこととは違うなと思って記事にしていなかったこともありました。この夏休み期間に、そうした内容を発信していきますので、ぜひ読んでいただけると幸いです。よろしくお願い致します。

第 1 回 教育開発ワークショップ

今年 1 月 31 日～2 月 2 日の 3 日間、スワコップムントという都市にて、JICA による「第 1 回教育開発ワークショップ」が開催され、私もファシリテーターとして協力させていただきました。JICA 海外協力隊が関わっている小学校 6 校から 2 名ずつ、スワコップムントとウォルビスベイの小学校から 1 名ずつ、これらの学校を管轄している



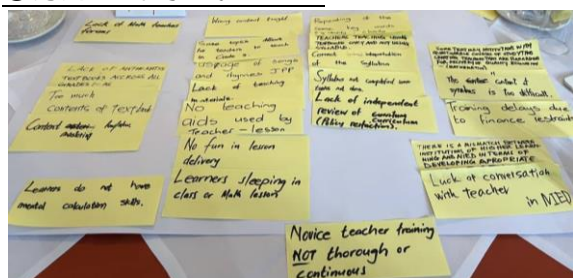
オマルルのサーキットオフィス（教育委員会のような組織）から 1 名、ナミビアの教育省にて算数教育を担当している方 1 名、JICA による日本での研修に参加経験のある校長先生 1 名、計 17 名の現地教員の方々が参加してくださいました。

ワークショップの目的と方法

本ワークショップは、現地教員が自ら日々の学習指導における課題を発見し、その原因を分析して解決策を導き実践していくことを目的として行われました。方法としては、PCM 手法 (Project Cycle Management) という問題解決手法を活用しました。PCM 手法とは、プロジェクトを計画立案し、実施をモニタリングして成果を評価するという方法です。本ワークショップでは、その計画立案を行い、5 ヶ月間の実施をモニタリングした後、成果を評価する第 2 回ワークショップを実施するという計画で行われました。

本ワークショップでの PCM 手法を活用した問題解決の流れ

①意見や問題を挙げる。



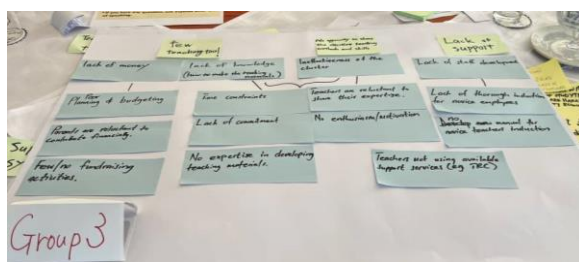
4、5人の小グループ内で、日々の学習指導の中で、困っていることや問題だと感じていることについて意見を書き出していました。「子供が授業を理解できていない」「新人教師が困っている」「教師が教材を使っていない」など様々な意見が出ていました。

②問題を分類して中心課題 (Core Problem) を見つける。



①で出した意見を分類し、そのグループに名前を付けるような形で中心課題を出していきました。「指導の仕方に問題がある」「教師へのサポートシステムがない」「教材不足」などが挙がっていました。

③中心課題 (Core Problem) が発生する原因 (Factor) を分析する。



②で出した中心課題の中から、特に分析したい3つを選び、それらの課題が発生している要因は何かを考えました。「実態を把握していない」「教師同士のコミュニケーション不足」「教材があっても使い方を知らない」などの意見が原因として挙がっていました。

④原因 (Factor) を解消するための解決策 (Solution) を見つける。



③で出した原因を解消するために、何ができるかを考えました。「シラバスにとらわれすぎない（理解度に合わせる）」「若手教師のための研修会を実施する」「教材アイデアをシェアするためのグループを作る」などの意見が挙がっていました。

⑤解決策 (Solution) から、個人の活動計画 (Action Plan) を作成する。

Goal: Improving learners' Performance in Mathematics						
Priority	Task Planning Time	Timeline	Assess	Resources	Notes	
HIGH	Can be pre planning and sharing of teaching and learning with help of subject volunteer (all and others at least once a week)	1st July 2nd July	4 Months	Open and Material to be ready. Supplies to be ready. Supportive, Encouraging	We need to be long at least 100 weeks before starting. It will be given to the	
LOW	Introducing of Mathematics (all at school to create interest in Mathematics and easy and of time)	1st July 2nd July	4 Months		The aim is to establish a strong club at school which will be able to manage and improve to enjoy mathematics	
MIDDLE	Learning and developing a variety of teaching and learning materials for every topic	1st July 2nd July	4 Months	ICT Materials (Mathematical graphs) worksheets and Internet	Spreading all the possibilities to meet Mathematics process to all the students	
STABLE	Establishing strong and continue to support staff, the office of the Subject adviser for Mathematics of last one a month	1st July 2nd July	4 Months	Mathematical Worksheets and performance Teacher's Keynotes	Spreading all the possibilities to meet Mathematics process to all the students	
HIGH	Supporting students' completion of the syllabus by covering all 6 Competencies in a week per year	1st July 2nd July	4 Months	Year 60 Scheme of work and syllabus	Mathematical Support that to the students and to the syllabus. It will be given to the students. It will be given to the students.	

④で出した解決策をもとに、この後5か月間のモニタリング期間に自分が実践したいことを「アクションプラン」として各教員、個人で紙にまとめました。評価しやすいよう、優先度や実施期間も設定しました。

ワークショップを振り返って

困っている事を共有し、仲間と共に解決策を考える機会は、先生方にとってプラスになっただけでなく、私にとっても先生方の思いが知れる貴重な機会になりました。先生方が一生懸命考えたアクションプランを、ボランティアという立場から支えていきたいという思いが生まれました。

